

品 目	1 エチルパラニトロフェニルチオノベンゼンホスホネイト（別名 EPN）及びこれを含有する製剤	2 ジエチル-S-（エチルチオエチル）-ジチオホスフェイト及びこれを含有する製剤
	エチルパラニトロフェニルチオノベンゼンホスホネイト（EPN）	ジエチル-S-（エチルチオエチル）-ジチオホスフェイト（エチルチオメトン、ジスルホトン）
廃棄方法	（１）燃焼法 （ア）木粉（おが屑）等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 （イ）可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。	（１）燃焼法 （ア）木粉（おが屑）等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 （イ）可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。
生成物 （注）		
検定法	ガスクロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法
その他		

（注）１．（ ）は、生成物が化学的変化を生じていないもの。以下同じ。

２．＊は、生成物が廃棄物の処理及び清掃に関する法律による規制を受けるもの。
以下同じ。

3 1、1'-ジメチル-4、4'-ジピリジニウムヒドロキシド、その塩類及びこれらのいずれかを含有する製剤	4 2-イソプロピルフェニル-N-メチルカルバメート及びこれを含有する製剤
1、1'-ジメチル-4、4'-ジピリニジウムジクロリド（パラコート、パラコートジクロリド）	2-イソプロピルフェニル-N-メチルカルバメート（MIPC、イソプロカルブ）
（１）燃焼法 （ア）木粉（おが屑）等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 （イ）そのままアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。	（１）燃焼法 （ア）そのまま焼却炉で焼却する。 （イ）可燃性溶剤とともにスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 （２）アルカリ法 水酸化ナトリウム水溶液等と加温して加水分解する。 〈備考〉 加水分解の際、反応液の pH を 10 以上に、また、反応液の温度を 40℃以上とする。
吸光度法 高速液体クロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法
	アルカリ性の場合には廃液中にフェノール類が生成する。

5 2-イソプロピル-4-メチルピリミジル-6-ジエチルチオホスフェイト (別名ダイアジノン) 及びこれを含有する製剤	6 エチルジフェニルジチオホスフェイト及びこれを含有する製剤
2-イソプロピル-4-メチルピリミジル-6-ジエチルチオホスフェイト (ダイアジノン)	エチルジフェニルジチオホスフェイト (EDDP、エジフェンホス)
(1) 燃焼法 (ア) 木粉 (おが屑) 等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。	(1) 燃焼法 (ア) 木粉 (おが屑) 等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。
ガスクロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法

7 塩素酸塩類及びこれを含有する製剤	8 1、3-ジカルバモイルチオ-2- (N,N-ジメチルアミノ) -プロパン、その塩類及びこれらのいずれかを含有する製剤
塩素酸ナトリウム (塩素酸ソーダ)	1、3-ジカルバモイルチオ-2- (N,N-ジメチルアミノ) -プロパン塩酸塩 (カルタップ)
(1) 還元法 還元剤 (例えばチオ硫酸ナトリウム等) の水溶液に希硫酸を加えて酸性にし、この中に少量ずつ投入する。反応終了後、反応液を中和し多量の水で希釈して処理する。	(1) 燃焼法 そのままあるいは水に溶解して、スクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。
滴定法	吸光光度法 高速液体クロマトグラフ法
ア 一度に大量の塩素酸ナトリウムを投入すると、有毒で爆発性のある二酸化塩素を発生するので注意する。 イ 劇物の付着した使用済の容器等をそのまま焼却しないこと。	

9 ジ (2-クロロイソプロピル) エーテル及び これを含有する製剤	10 2,2' -ジピリジリウム-1,1' -エチレンジブロミ ド及びこれを含有する製剤
ジ (2-クロロイソプロピル) エーテル (DCIP)	2,2' -ジピリジリウム-1,1' -エチレンジブロミド (ジクワット、ジクワットジブロミド)
(1) 燃焼法 (ア) 木粉 (おが屑) 等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。	(1) 燃焼法 (ア) 木粉 (おが屑) 等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) そのままアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。
ガスクロマトグラフ法	吸光光度法 高速液体クロマトグラフ法

11 ジメチル・2,2-ジクロロビニルホスフェイト (別名 DDVP) 及びこれを含有する製剤	12 ジメチルジチオホスホリルフェニル酢酸エチル 及びこれを含有する製剤
ジメチル・2,2-ジクロロビニルホスフェイト (DDVP、ジクロロボス)	ジメチルジチオホスホリルフェニル酢酸エチル (PAP、フェントエート)
(1) 燃焼法 (ア) 木粉(おが屑)等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 (2) アルカリ法 10 倍量以上の水と攪拌しながら加熱還流して加水分解し、冷却後、水酸化ナトリウム等の水溶液中で中和する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。	(1) 燃焼法 (ア) 木粉(おが屑)等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。
ガスクロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法

13 ジメチル-4-メチルメルカプト-3-メチルフェニルチオホスフェイト及びこれを含有する製剤	14 トリクロルヒドロキシエチルジメチルホスホネイト及びこれを含有する製剤
ジメチル-4-メチルメルカプト-3-メチルフェニルチオホスフェイト (MPP、フェンチオン)	トリクロルヒドロキシエチルジメチルホスホネイト (DEP、トリクロルホン)
(1) 燃焼法 (ア) 木粉(おが屑)等に吸収させてアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤と共にアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 〈備考〉 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。	(1) 燃焼法 (ア) そのままスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともにスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 (2) アルカリ法 水酸化ナトリウム水溶液等と加温して加水分解する。 〈備考〉 1 スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。 2 加水分解する際、反応液の pH を 13 以上に、また、反応液の温度を 50℃以上とする。
ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法	薄層クロマトグラフ法 ガスクロマトグラフ法

15 トリフルオロメタンスルホン酸及びこれを含有する製剤	16 N-メチル-1-ナフチルカルバメート及びこれを含有する製剤
トリフルオロメタンスルホン酸	N-メチル-1-ナフチルカルバメート (NAC、カルバリル)
(1) 燃焼法 多量の水に徐々に加えて希釈し、水酸化ナトリウムの水溶液を攪拌しながら加えて中和した後、アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。 洗浄廃液に消石灰等の水溶液を加えて処理し、沈殿ろ過して埋立処分する。 〈備考〉 ア スクラバーの洗浄液には、水酸化ナトリウム水溶液を用いる。 イ 焼却炉は、有機ハロゲン化合物を焼却するのに適したものであること。 ウ トリフルオロメタンスルホン酸は、水と急激に接触すると多量の熱を発生し、酸が飛散することがあるので注意する。	(1) 燃焼法 (ア) そのまま焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともに焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。 (2) アルカリ法 水酸化ナトリウム水溶液等と加温して加水分解する。 〈備考〉 加水分解の際、反応液の pH を 10 以上に、また、反応液の温度 40℃以上とする。
CaF ₂	
吸光光度法 イオン電極法 (F)	ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法
劇物の付着した使用済の容器等を焼却すると弗化水素ガスを発生するので、洗浄装置のない焼却炉等で焼却しない。	アルカリ法の場合には廃液中にフェノール類が生成する。

17 3-メチルフェニル-N-メチルカルバメート 及びこれを含有する製剤	18 2-(1-メチルプロピル)-フェニル-N-メチルカルバメート及びこれを含有する製剤
3-メチルフェニル-N-メチルカルバメート (MTMC, メトルカルブ)	2-(1-メチルプロピル)-フェニル-N-メチルカルバメート (BPMC、フェノブカルブ)
(1) 燃焼法 (ア) そのまま焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともに焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。	(1) 燃焼法 (ア) そのまま焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともに焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 (2) アルカリ法 水酸化ナトリウム水溶液等と加温して加水分解する。 〈備考〉 加水分解の際、反応液の pH を 10 以上に、また、反応液の温度を 40℃以上とする。
ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法
	アルカリ法の場合には廃液中にフェノール類が生成する。

19 S-メチル-N- [(メチルカルバモイル) -オキシ] -チオアセトイミデート (別名メトミル) 及びこれを含む製剤	
S-メチル-N- [(メチルカルバモイル) -オキシ] -チオアセトイミデート (メトミル、メソミル)	
(1) 燃焼法 (ア) そのままスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともにスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。 (2) アルカリ法 水酸化ナトリウム水溶液と加温して加水分解する。 〈備考〉 ア スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。 イ 加水分解の際、反応液の pH を 10 以上に、また、反応液の温度を 40℃以上とする。	
ガスクロマトグラフ法	